



トンボワテ村、コンニャク畑造成(5月)

住民参加による アグロフォレストリー推進支援 (ミャンマー・エーヤワディ河口域)

ムカゴによる
コンニャク栽培 **15,000個体**

講義および実習—
コンニャク荒粉・
精粉生産技術

延べ70人

活動の全体目標に
対する達成度

60%

課題

貧困問題解決及び野生種絶滅回避の一助とする、①換金作物コンニャク栽培技術の開発と技術移転、②荒粉生産・精粉・品質管理の指導、③販路開拓。

活動内容

(1)コンニャク事業支援

①自生する4地域(チン・シャン・モン・エーヤワディ各州)での調査—野生種減少の実情、栽培の有無、コンニャク芋の乾燥方法、中国への輸出、②シャン州産ムカゴの入手輸送手段の確立、③ムカゴ栽培の開始(収穫は3年後)、④荒粉生産技術の指導、⑤1kg超のコンニャク芋の買い取り、⑥ヤンゴンでの販路開拓。

(2)キッチンガーデン支援

①野菜種子配布、②講義—野菜を食べる重要性。



トンボワテ村、
コンニャクの生育(8月)

今後の課題

重要なのはコンニャク事業が収入増につながる事。それが実感できれば、農民は競って本事業に参加する。今後の課題は3つ。①栽培技術の確立、②良質の乾燥チップ製造、③販路の確保(日本料理店・中国への輸出)

成果と工夫した ポイント



成果

①コンニャクの生育率80%、②コンニャク芋の天日乾燥の適期は12-3月、夜露を避ける、③販路開拓—ヤンゴンの日本料理店4軒、④乾季に10余種の野菜をみごとに栽培(篤農家ウイェラ)。

工夫

地域住民は優れた農民である。問題はやる気をおこさせること。一部収穫物の買い上げもひとつの工夫。